

1 楽しく体を動かそう

*健康な心と体
*言葉による伝え合い
*数量・図形、文字等への
関心・感覚

<跳んでみたくなる環境> 5歳児 I期 ・ II期

ねらい ◎全身を使って遊びこむ中で、跳ぶ楽しさを味わう

○いろいろな遊びの中で十分に体を動かし、充実感を感じ、体を動かす遊びを楽しむ

自由な遊び

カエルの住む池やハスの葉に見
立てた環境



びよんびよん!
カエルだよ

平面 ゴム跳び



★ひっかけても痛くないゴム

忍者のつもりでジャンプ!

ドキドキするけ
どいってみよう

試す・工夫する

段差・小川での石跳び



気付く・できる
ようになる

★思わず遊びだしたくなる環境を整える。または幼児と遊びの場を考えてつくる。(例：忍者修業の場) など。

○「やってみよう」という気持ちで遊びを始める、繰り返し遊びを楽しむ、遊びながら自然と友だちや教師との関わりが広がっていく。

△幼児の興味関心を察知し、その時期の姿に合った遊びを考える。また挑戦してみようと思える遊びも工夫する。

○いろいろな遊びを経験する。

一人跳び



粘り強く取り組む・挑戦する

リングを使って跳ぶ



大縄跳び



それ! 今だ!

○縄の動きを観察してタイミングを合わせて跳ぶ、友だちや異年齢の子と手をつないで互いに声をかけて縄を潜り抜ける、フープ縄跳びをする、一人で跳ぶ縄跳びに挑戦する。

△存分に遊べる時間や場所を確保する。大縄遊びでは教師が回し手となりタイミングを合わせる。「跳ぶ」技術に固執しすぎないように留意する。

▲「できた」という経験が特に5歳児は自信や意欲につながり、体を動かして遊ぶことに積極的な様子が増える。年少児はその姿を見て憧れ、「やってみよう」という気持ちをもつきっかけとなっている。

遊びの中の豊かな学び

- ・楽しみながら繰り返して遊ぶ中で、いろいろな体の動かし方やリズムカルに跳ぶ楽しみ、あきらめずにやり遂げたことで、満足感や達成感を味わう
- ・距離感・高さ・方向などの体の感覚をつかんだり、スリルを味わいながら跳ぶ
- ・友だちと気持ちを合わせたり声をかけ合ったりする中で培う協同性、言葉による伝え合い
- ・どうすればできるようになるか、試行錯誤する中でより楽しめる方法を見つけしていく
- ・跳べた回数を数える。数量への関心をもつ

評価の観点

- ・ワクワク・ドキドキ夢中になって遊べる環境教材であるか
- ・幼児はもっとやってみようと思いが高まっているか